

第3回

さんいん
ユーモア
連歌大賞

入選作品発表

山陰中央新報社の第3回「さんいんユーモア連歌大賞」662点(課題1・318点、(後援・島根大「やみつくば」課題2・344点)だった。審査は本紙文化面の連載大賞は、課題1が浜田市国分町の酒井由美さん、課題2は名古屋市の会社員藤本ゆきなさんの作品がそれぞれ選ばれた。優秀賞10句、佳作5句を選考した。

日本古来の歌のかたち「連歌」を多くの人に親しんでもらうのを目的、全国から作品には千円分の図書カードを贈る募集。課題1「冷房の効きすぎている喫茶店」に七七の付句、課題2「あれもこれもと欲張りな人」とともに、入賞作品を紹介すると欲張りな人」に五七五の付る。

課題1
冷房の効きすぎている喫茶店



(挿絵・麦倉つさぎ)

窓の水滴乱反射して

(浜田) 酒井 由美

優秀賞

マスクの中に残る温もり

(松江) 松本 聖那

さつき済ませて座ったばかり
椅子は硬いしコーヒーまずいし
(出雲) はなやのおきな
(隠岐の島) 大田 有子

過疎の町にはたった一軒

(松江) 持田 高行

大賞

早めに別れ話切り出す

(松江) 岩田 正

素人寄席の四谷怪談

(松江) 加茂 京子

次のバスまで一時間半

(松江) 狭山 石田 泰生

相撲部員がカレー食ってる

(松江) 今井 ヒロ

ごめんと言えぬまま時間切れ

(東京・足立区) 小野 史

彼の上着を羽織る言い訳

(三重・名張) いけうちしおり

佳作

張り込み続けもう三時間

(出雲) 野村たまえ

やつと手にした恋は台なし

(江津) 井上 芳政

ラーメンあればやるだろうつに

(雲南) 福場 仁一

集合時間にだれも来てない

(益田) 竹内 良子

三密避ける客の入れ換え

(江津) 服部 千恵

選評



下房桃菴氏

「付句」というのは、その名のかたがこのあたりと思うところがあってもいい。同じ人間な人が若くなるのか、相手が若くのとおり、前句に「付ける句」たりは、たいがい、またまだのようですが、見たかたひとつで評価なるのか。どちらにしてもうらなですが、かといつてあまり前句に近すぎるもの、というのが逆転するのです。優秀賞で印象に残ったのは、は、恋愛に「あれもこれも」は、まぜん。前句の世界からなるべ、課題1の大賞は、付けよう、課題1の「さつき済ませて」。やつぱりまずい、ということ、く「離れ」て、自由な連想の世、付けよう、と緊張しないで、とて「トイレ」といふことを伏せ、しようか。同じバイキングでも、界に遊びたいものです。この「離れる」ことを、「飛ぶ」とも申す。「転じる」とも申します。そして、前句に「付」もきれいにまとまりました。「乱」たところが心憎い。「素人寄席」にいくのかは知りませんが、とかず離れずの距離を保つのが、反射を詠んだ句は他にはなく、は、咄は下手なのに、妙にソクにかく「隣見」なのですね。付句の理想の姿とされます。そのユニークさでも群を抜いてソク来る。「彼の上着」もい、では、それはどの程度の距離、おりました。い、ですね。若い人は、こんなことが、それでいて、これだけ、なのか。これは経験によつて、課題2の大賞は、前句の「欲」でも幸せになれます。課題2の「年の差婚」は、本歌ついてもいいです。連るしかないのですが、ただ、初「張り」を「立役者」に転じたこと、

「付かず離れず」が理想

「味噌汁にスープ」は具体的な料理で勝負。「また取りにくい」は、なにを取り

大賞

コロナ禍の経済回す立役者

(名古屋) 藤本ゆきな

優秀賞

君だけでいいと言われて嫁に来て

(益田) 青川 洋子

休日には千手観音巡りです

(美郷) 芦矢 敦子

年の差婚くりかえすたび若くなり

(松江) 川津 蛙

赤い糸だけはいまだに手繰れない

(大田) 塩毛 千介

佳作

説明書読んでも使えない機能

(松江) 佐々木 滋子

墓場まで持っていけぬと知りながら

(浜田) 山崎 重子

初デート行動予定は秒単位

(出雲) 放しサユキ

買い占めた大好物は力じだらけ

(美郷) 源 連城

肩書が裏まで回る名刺出し

(松江) 澄川 克治

※一部、添削した句があります。ご了承ください。